




月日(校時)	単元名	教材名
11月7日(水) (3校時)	かけざん(1)	新しい計算を考えよう
本時のねらい (本時 13/25) ○2の段の九九の構成の仕方を理解する。		
評価規準 考 5の段の九九の構成の仕方を基に、2の段の構成の仕方を考え、説明している。(ノート・ワークシート、発言) 技 2の段の九九を構成することができている。(ノート・ワークシート・発言)		
学習過程	学習活動(○発問・予想される児童の反応)	キーワード 留意事項・評価
【導入】 振り返り 10:35	・5の段のかけ算の学習を振り返る。 前時に学んだ5の段のかけ算九九の唱えを聞き合い、全体で、5の段のかけ算の意味について確認する。	・ペアで5の段の九九を聞き合わせ、5の段式の意味についても側面掲示資料を使って確認する。
問題提示 10:37 問いの共有(見通し) 10:45 課題把握 ・シラバス ・言語わざ 10:46 自力解決 10:52 集団解決 ・ペア学習 10:54 ・全体学習 ・考察 11:09 まとめ	1 問題を知る。 1 さらにすしが2こずつのっています。さらは6さらあります。すしは何こあるでしょう。  ○問題について、分かることや気づいたことを発表してください。 ○5の段のお菓子の問題と似ているところや違うところはどこですか。 ・1つ分の数が、5の段のときは、5だったけど、お寿司は1皿に2個ずつで、1つ分の数が違います。 ・式はかけ算です。 しき 2×6 2 課題を確認する。 1つ分の数が2のすしの数をしらべ、図や式、ことばをつかってせつめいしよう。 《1人学び(6分)・ペア学び(2分)・全体学習(15分)・まとめ(9分)・振り返り(2分)》 言語わざ：図・式・ことばをつかう。 3 すしの数の求め方を考える。 ・1皿に2こずつだから、6皿だったら $2+2+2+2+2+2=12$ 2×6 は、2を6回たすといい。 ・2とびで数えたら、2, 4, 6, 8, 10, 12で12です。 ・6皿かいてみると寿司は、12でした  2×1 2×2 2×3 2×4 2×5 4 すしの数の求め方について話し合う。 ○どのようにして求めたか説明し合ひましょう。  5 7皿分、8皿分、9皿分のすしの数について考える。 ・2ずつ答えが増えるから、 $12+2=14$ 7皿では、14こです。8皿では、 $14+2=16$ なので、16こです。9皿では、 $16+2=18$ で、18こです。 ・ 2×7 は、2を7回たすといいです。 ○2の段のかけ算の式と答えをまとめよう。 6 2の段の九九の構成についてまとめる。 1つ分の数が2のすしの数をしらべると、2のだんの九九ができる。	5のだん 2のだん かけ算 九九 1つ分の数 ~さら分 1さらに〇こ いくつ分 ぜんぶの数 たしざん ・すしが1皿に2個のった絵を提示する。 ・解決の見通し(分かっていること・やり方・考え方)を交流させる。 ・ハンドサインチェックを行い、見通しが持てない児童には、おはじきや5皿分の図(ワークシート)を使って考えるよう示唆する。 ・ノートに考えを書かせ、早くできた児童には、ホワイトボードに考えを書くよう指示する。 ・他のやり方でも考えるよう指示する。 ・補助黒板を使って、児童の考えを掲示させるようにする。 考 5の段の九九の構成の仕方を基に、2の段の構成の仕方を考え、説明している。 技 2の段の九九を構成することができている。
【終末】 ふりかえり 11:18	7 学習したことを振り返る。	・振り返りの視点にそって、できるようになったこと、分かったこと、友だちから学んだことを記述させる。